

第13回決済システムフォーラム資料

電子マネーの利用増加と最近の特徴

「最近の電子マネーの動向について(2010年)」、BoJ Reports and Research papers、2010年10月より



日本銀行 決済機構局

2010年12月14日

□ 決済件数・金額ともに前年比4～5割の高い伸びが継続。

✓ 2009年度は15億件、1.3兆円の決済に利用

プリペイド式電子マネー（8種類）が調査対象

（比較）クレジットカード利用額42兆円、百貨店売上額7.1兆円、スーパー同12.5兆円、コンビニエンスストア同7.9兆円

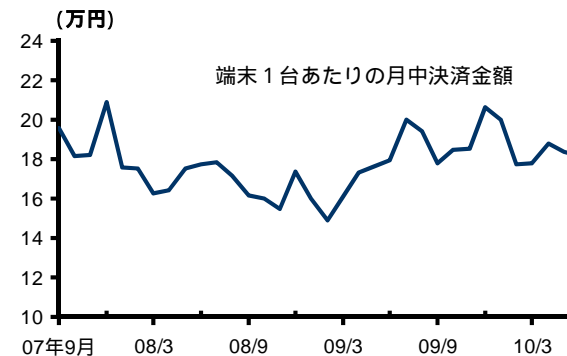
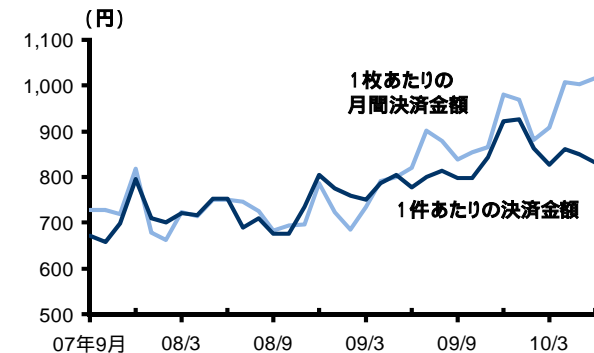
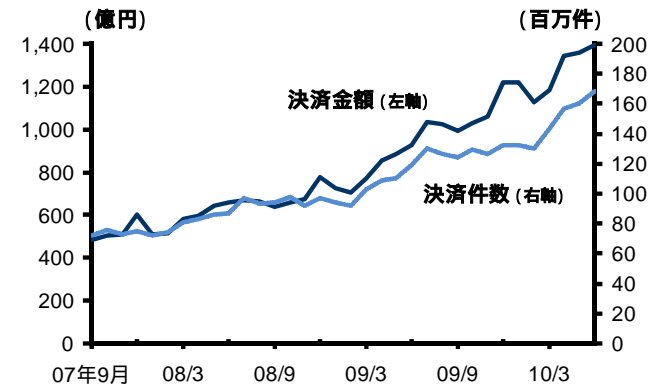
✓ 発行枚数は1億3千万枚を超えた（2010年4月）

□ 「駅ナカ」から「街ナカ」、グループ内企業から外部提携への展開、流通系電子マネーの増加

✓ 端末台数も伸びを加速（前年比5割増）

✓ 流通系電子マネーの利用拡大に伴って1件あたりの決済金額が上昇

✓ 端末1台あたりの決済金額が2008年度末頃を底に持ち直し、市場規模の拡大が端末設置・運用コストの軽減に繋がる



□ 使われ方の特徴

- ✓ 1回あたりの平均利用額は800円台だが、ばらつきは大きい(右上図アンケート調査)
- ✓ 一枚あたりの残高は800円台、利用とチャージを繰り返すため少額
- * 総残高は1,152億円(2010年6月末)、貨幣4.5兆円に比べると僅か(2.6%相当)

□ 事業主体別に使われ方が異なる傾向

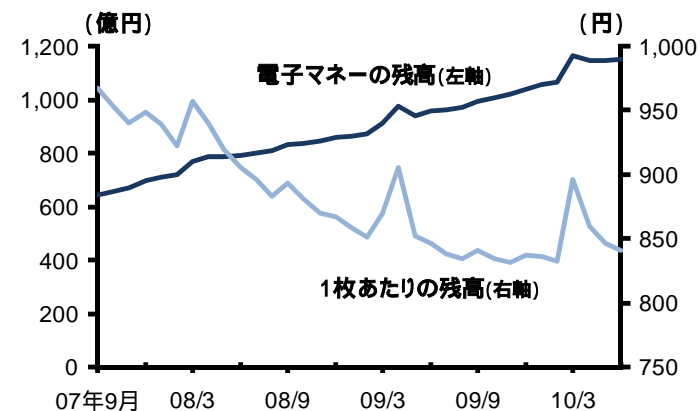
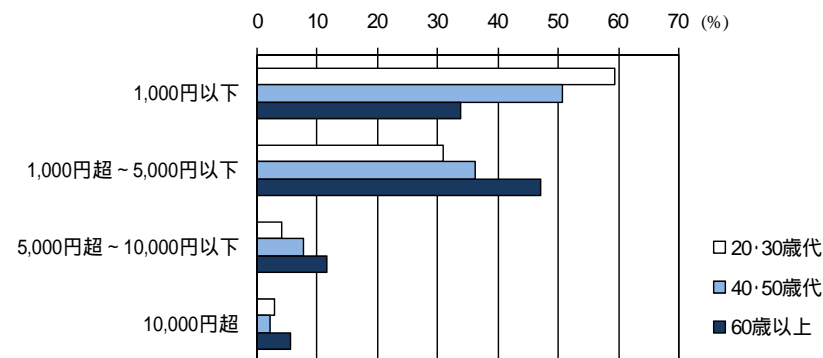
交通系 1件あたりの決済額に比べて多めの残高をチャージし、小額決済に利用

流通系 比較的高額の決済に利用、チャージする金額も高いが残高の減少ペースも速く、より高頻度でチャージ

□ 貨幣の代替効果は、学術研究やアンケートの結果をみるかぎり限定的

- ✓ 持ち歩く「硬貨」、「千円・二千円紙幣」、「五千円・一万円紙幣」は、変わらないと回答した人の割合が、いずれも8割台

年代別 1回あたり利用額 (回答構成比)



1件あたり決済額	交通系 < 流通系
回転率 (月中決済金額/残高)	交通系 < 流通系
1枚あたり月中決済件数	交通系 < 流通系